

第2回越谷市学生議会 会議録要旨

資料4

越谷市学生議会 一般質問項目一覧

No.	学生議員名	学校名	議席番号	質問項目	答弁議員名	
1	大塚友加里	埼玉県立大学	27	越谷市の広報紙について	岡野英美	総務
2	熊谷恵実	文教大学	29	選挙投票率増加に向けた方策について	岡野英美	
3	鈴木彩加	文教大学	26	男女共同参画社会について	島田玲子	
4	中井紗恵	埼玉県立大学	4	越谷市の消防救急について	島田玲子	
5	八木沢匠	東洋大学大学院	16	越谷市のイメージ戦略について	白川秀嗣	
6	皆川純平	文教大学	28	SNS等利用による地域コミュニティの促進について	白川秀嗣	
7	宮坂久美	東京医科歯科大学	8	越谷のバリアフリー化について	玉生芳明	
8	宮沢智行	東洋大学	2	越谷市の被災地に対する復興支援について	玉生芳明	
9	内川聡介	埼玉県立大学	21	越谷市における夜間小児救急体制について	山田大助	民生
10	岸野健太	埼玉県立大学	9	高齢者の安全のための情報共有について	橋本哲寿	
11	喬銀凱	文教大学	17	越谷市の国際交流について	守屋亨	
12	栗原恭平	埼玉県立大学	18	高齢者の健康寿命を延ばすための市の取り組みについて	守屋亨	
13	須田若菜	文教大学	10	生活保護について	橋本哲寿	
14	関根那穂	共栄大学	20	越谷市の保育について	瀬賀恭子	
15	並木恭子	文教大学	13	放置自転車対策について	瀬賀恭子	
16	三上里穂	文教大学	12	越谷市の防災について	山田大助	
17	石川直人	文教大学	5	緑化推進について	辻浩司	建設
18	高橋直裕	文教大学	3	越谷駅東口市街地再開発事業について	高橋幸一	
19	福山沙月	埼玉県立大学	19	越谷市の都市計画について	高橋幸一	
20	高橋亜由美	文教大学	22	不登校児童への対応について	江原千恵子	
21	矢羽々沙樹	日本女子体育大学	30	越谷市のスポーツ普及策について	松島孝夫	
22	吉井周子	文教大学	7	越谷市の学校給食について	江原千恵子	
23	依田啓太	文教大学	6	越谷市のいじめ対策について	松島孝夫	
24	芦部洋一郎	文教大学	24	教育行政方針について	大石美恵子	
25	池田菜々	埼玉県立大学	25	中学校選択制について	小林豊代子	教育・環境経済
26	市川慶太	文教大学	23	夏の熱中症対策について	畑谷茂	
27	大江真央	東京学芸大学	14	生涯学習を通じた世代間交流について	畑谷茂	
28	大友直人	埼玉県立大学	11	教育振興基本計画について	菊地貴光	
29	小澤啓登	文教大学	1	ごみの減量について	小林豊代子	
30	柴山歩美	文教大学	15	教員の人材育成について	大石美恵子	

1	大塚 友加里
質問項目	越谷市の広報紙について
質問要旨	<p>越谷市の広報紙の配布についてお尋ねします。越谷市の広報を拝見させていただいて、カラーで写真や表なども多くとても見やすい広報紙であると感じました。また若者も興味がひかれるような特集などもあり、より越谷に興味をもち、暮らしやすくしていく工夫がされているのだと思いました。しかし、広報紙の配布は主に自治会等により行われていて、駅や公共施設に設置されているなどしても、手に渡らない住民もいるのではないのでしょうか。広報紙の配布状況の実態と全市民への情報提供のための対策や課題について教えていただきたい。</p> <p>これに加えて提案させていただけるのであれば、私と同じ大学に通う越谷で一人暮らしをしている人の多くが「広報紙が家に届くことはない」と言っています。大学生活において越谷での暮らしをよりよくするためにも、大学への広報紙の設置やメールで情報が得られることについてお知らせをしてはどうかと考えますがいかがでしょうか。</p>
答弁要旨	<p>広報紙は自治会などの広報配布責任者のところまでは市が配送し、各世帯へは住民の協力で配布いただいています。自治会未加入の世帯であっても、10世帯程度まとまり、配布責任者を決めていただける場合は、その責任者のところに配送しています。本年5月1日現在の配布状況は、市の世帯数13万9,604に対し、自治会などの広報配布責任者を通じて配布している世帯は10万7,900となっており、配布率は77.3%です。自治会加入率は、23年度が69.92%、24年度が69.58%と年々低下しており、各世帯への広報紙の配布率が下がっていることが課題となっています。</p> <p>現在の配布方法にかわるものとしては、ポスティングや新聞折り込みがありますが、配布経費が現在の配布方法に比べ、より増大します。当面はコミュニティ施策の観点からも現在の配布方法を堅持しながら、まちの身近なところで広報紙が手に入るよう広報紙を置かせていただいているコンビニエンスストアの協力店やその他施設の拡大に努めてまいります。</p> <p>なお、大学への広報紙の設置につきましては、既に文教大学へ50部、埼玉県立大学へ20部配送していますが、今後送付部数をふやしていただくよう働きかけてまいります。</p> <p>一方、必要な情報を市のホームページから取得する方も多くなっています。市では、本年2月からツイッターを開始し、ホームページ掲載の新着情報をツイッターで配信しています。また、越谷 city メールにご登録いただいた方に、市政イベント情報などをメールで配信するサービスも行っています。これらの制度の周知に努めるとともに、スマートホン対応などホームページのデザイン変更や広報紙の電子書籍化なども検討し、情報提供の充実に努めていく必要があると考えています。</p>
再質問要旨	cityメールの登録に至るまでの周知などの対策をお教えいただきたい。
再質問答弁要旨	市のホームページ、また広報紙に登録方法が載っておりますので、皆様で気づいた方が友達に教えていただくなど、周知への協力をしていただければありがたいと思っています。

2	熊谷 恵実
質問項目	選挙投票率増加に向けた方策について
質問要旨	国民の義務である選挙ですが、選挙権を持ったばかりの私たち若い世代が意欲的ではないのだからと考えます。そこで、Twitter や Facebook 等の SNS を活用し、選挙日や公約を情報発信してほしいと考えます。いかがでしょうか？
答弁要旨	<p>若い方への取り組みとして、地区ごとに開催されている成人式の当日に、選挙についての啓発冊子やパンフレットを配布しています。また、新成人には、その誕生日に合わせてお祝いのメッセージカードとともに、選挙の仕組みについての冊子を自宅送付しています。各選挙が行われるときには、広報紙、市のホームページ、懸垂幕、立て看板、チラシに投票を呼びかける記事等を掲載することや、市内の大中規模の約60の店舗での棄権防止を呼びかける店内放送や防災行政無線による投票を呼びかける放送なども行い、多くの有権者の方に投票してもらえよう啓発しています。</p> <p>なお、SNSを活用した取り組みにつきましては、SNSが広く配信できるメリット等を備えていますので、今後、実際に活用している他の自治体の事例などを調査研究していく必要があると考えています。</p>

3	鈴木 彩加
質問項目	男女共同参画社会について
質問要旨	経済的・精神的な自立や社会参加を求める女性のための支援体制の充実に努めるということが、施政方針に記されておりました。しかし、女性でも経済的・精神的な自立や社会参加ができていない人もいます。そういった状況の中で、越谷市が目指す具体的な男女共同参画の在り方を教えていただきたい。
答弁要旨	<p>保育所の運営による通常保育のほか、送迎保育や延長保育など、保護者の就労形態に応じた保育サービスも提供しています。生活ニーズに応じて多様な働き方を認めていく、ワークライフバランスの推進を図るため、市ホームページや男女共同参画支援センター「ほっと越谷」の情報誌などでの情報提供、メリットや企業の取り組みの事例などをまとめたリーフレットの作成、取り組みが積極的な企業への表彰などを行っています。</p> <p>子育て期を中心に、就職を目指す女性を支援する取り組みとして、再就職などに必要となる基礎知識やパソコンの操作技術の講座を開催し、講座では子育て中の方が参加しやすいよう託児サービスも行っています。</p>
再質問要旨	子育てなどでパートやアルバイトを選択せざるを得ない女性の賃金などの問題点についてどのようにお考えでしょうか。
再質問答弁要旨	ワークライフバランスを取り入れている企業では、会社内に保育所があるところもあり、そういった企業でなら働くことができるのではないかと思います。

4	中井 紗恵
質問項目	越谷市の消防救急について
質問要旨	<p>消防救急についてお尋ねします。人が倒れ、心臓や呼吸の機能が停止した状態になった場合、応急手当等処置がなく3分を経過すると救命できる率が50%になり、5分を経過すると救命することが極めて困難になると言われています。救急車が現場に到着するまでに平均8分かかることから、その間に現場にいる市民が救命処置を行うことが救命につながります。そこで越谷市では、近年AEDの設置が増加しているなかで、心肺蘇生法やAEDの使用法などの救命処置を市民に教える機会をどのように設けているのかを、教えていただきたいです。</p>
答弁要旨	<p>広く市民の方に普及するため、消防署において公募による応急手当講習を毎月開催しています。ホームページや広報紙で参加を呼びかけ、平成23年中は、AEDの取り扱いと心肺蘇生法を学ぶ普通救命講習Iを12回、AEDの取り扱いと心肺蘇生法に加え傷病者の管理法や外傷の処置要領等を学ぶ上級救命講習を2回、AEDの取り扱いと心肺蘇生法のうち、胸骨圧迫だけ学ぶ救命入門コースを1回開催し、合計350人の市民が受講しました。また、事業所等の各団体からの申請による応急手当講習も行っており、平成23年中は70回開催、1,573人の市民が受講しました。さらに、自治会や事業所等で行う消防訓練で応急手当体験コーナーを設け、普及啓発に努めています。</p> <p>平成23年中は104人の心肺停止傷病者に対し、市民の方による応急手当が実施され、6人の命が救われています。</p>
再質問要旨	<p>講習会への参加は多くが成人以上の市民の参加なのではないのでしょうか。</p>
再質問答弁要旨	<p>救命入門コースの受講対象者は、越谷市に在住、在勤、在学する中学生以上、また小学校4年生以上も受けられるようになっています。</p>

5	八木沢 匠
質問項目	越谷市のイメージ戦略について
質問要旨	<p>他県に住む人と話すと越谷についてあまりにも漠然なイメージでとても驚くことがよくあります。例えば、草加市だったら煎餅、春日部市だったら「クレヨンしんちゃん」などその市で関連づけられるイメージがありますが越谷市はこれといったものはありません。抽象的な街のイメージでも川越ならば古き良き小江戸、大宮ならば近代的衛星都市という単語がすぐに浮かびますが越谷はどうでしょうか？そのような他県の人にもすぐに認知されるべき物を作るための努力は何かされていますか？</p>
答弁要旨	<p>特産物、観光について、伝統的技術に立脚したたるま、ひな人形、手焼きせんべい、桐箱等の伝統的手工芸品があり、また農産物として越谷ネギ、太郎兵衛餅、クワイがあります。さらに、新たな農産物の取り組みでは、越谷市商工会青年部が考案したこしがや鴨ネギ鍋があり、毎年開催されている産業フェスタでは、5,000人分の大鍋イベントでの試食や宣伝を行っています。また、マスコットキャラクター、ガーヤちゃんを誕生させています。</p> <p>さらに、地元越谷にゆかりのある商品等を地域ブランドとして認定するこしがやブランド認定制度を創設し、こしがや鴨ネギ鍋ギフトセットや越谷の地酒、越谷宿など9品目を初め、今年は越谷産いちごと関連した商品、3品目を認定しました。</p> <p>観光事業について、これまで花火大会、北越谷のさくらまつり、さつき大会、菊花大会、市民まつり等のイベントを初め、平成22年度からこしがや田んぼアート事業を開始しています。また、映画やテレビドラマへのロケ地に関する情報の提供や撮影支援を行う越谷市フィルムコミッション事業を平成22年9月から取り組んでいます。</p> <p>さらに、平成23年度からは、市役所東側の葛西用水沿いにウッドデッキを整備し、歩道橋の機能やイベント開催の拠点としての活用など、観光スポット創設を目指しています。</p> <p>また、越谷市農業技術センターでは、イチゴの観光農園を目指す農業者の育成を図っており、イチゴ観光農業を含む農業者も増えつつあります。</p>

6	皆川 純平
質問項目	SNS等利用による地域コミュニティの促進について
質問要旨	<p>越谷市には2つの大学があり、若い世代の方が多く住んでいると伺っています。そのため人の入れ替わりが多いので、新たな地域コミュニティが構築されにくい状況であると思います。縁あって私は、フェイスブック（FB）上で飲食店経営の方が個人で立ち上げたグループにいらしていただきました。その中では、比較的若い世代の方が地域内の情報や意見交換を行っていて、越谷に来てわずか数年の私でも越谷市について多く知ることができました。FB等のSNSの利用など、若い世代を対象とした新しい形の地域コミュニティも必要と感じていますが、ご意見をいただきたいです。</p>
答弁要旨	<p>地域コミュニティの形成を図る拠点として、地区センター、公民館が設置されています。各地区にはコミュニティ推進協議会が組織され、地域資源を活用したイベントの開催、安心・安全な地域づくり活動が行われています。また、地域コミュニティ活動拠点として、本年6月、越谷駅東口駅前のツインシティに越谷市市民活動支援センターが開設され、若者はもとより世代間の交流やインターネット等を利用した情報発信の場として市民に利用されています。</p> <p>SNSを活用した情報発信として、本年2月からツイッターによる情報発信を開始しました。双方向の情報伝達が行えることがSNSの特徴ですが、市では寄せられた意見に対し個人のように簡単に返信することができません。行政側からは返信せず、ホームページやメール配信のサービスと同じようにSNSを情報発信手段として利用している自治体が多く、SNSを活用しているのはごく一部です。</p> <p>一方、子育て、地域福祉、地域づくりなどの公共分野における活動を支援し、協働のまちづくりを進めており、大学生などの若い世代が地域コミュニティを築き市民活動が行われることは大変望ましいと思います。</p> <p>若い世代や世代間相互の交流が促進され、SNS等を利用した新たな地域コミュニティの形成に役立てていただければと考えています。</p>

7	宮坂 久美
質問項目	越谷のバリアフリー化について
質問要旨	<p>南越谷駅に新しいエレベーターが設置され、大変便利になったと思います。しかし、バリアフリー化を実施するに当たり、エレベーターを設置すれば良い、ということはないと思います。例えば、トイレを和式から洋式に変えるだけでもバリアフリーと言えらると思いますが、いかがでしょうか。エレベーターを設置する以外のバリアフリーの方法を小中学校のバリアフリー化とも併せて教えていただきたい。</p>
答弁要旨	<p>越谷市では、道路の段差解消や視覚障がい者誘導用の点字ブロックの敷設、公共施設へのオストメイト対応型トイレの設置を行っています。駅舎へのエレベーター設置につきましては、平成25年度中に市内すべての駅舎にエレベーターが設置されることとなります。また、情報をまとめたバリアフリーマップ及びトイレマップを配布、ホームページに掲載しています。障がい者の社会参加や移動の円滑化、手話通訳者等の派遣による情報保障等もバリアフリー化のひとつと考えています。</p> <p>小中学校のバリアフリー化については、点字ブロックやタイル等の設置、段差を解消するためのスロープや階段の手すり、トイレの洋式化については計画的に整備を進めています。エレベーターの設置については、当面の措置として階段昇降機により対応をしています。</p> <p>点字ブロックの色等については、今後調査をしながら検討していきたいと考えています。</p>

8	宮澤 智行
質問項目	越谷市の被災地に対する復興支援について
質問要旨	<p>昨年 2011 年 3 月 11 日に起きた地震によって東北地方では大規模な被害を受けました。今でも被災地では復興活動が続けられ、テレビなどでは様々な著名人の方による義援金の寄付などをよく見かけます。そこで越谷市では東北の被災地に対してどのような復興支援をなされているのでしょうか。具体的に教えていただきたい。</p>
答弁要旨	<p>市民の方々からいただいた被災地への救援物資は、粉ミルク、おむつ、マスクなど 11 品で、2,915 件、物資の選別などでご協力いただいたボランティアの皆様は、延べ 1,590 人です。救援物資と市の備蓄物資を、越谷市と災害協定を結んでいる福島県二本松市を初め南相馬市、宮城県気仙沼市など計 7 カ所に輸送しました。また、現地の救援活動などに当たるため、埼玉県消防機関がチームをつくり、緊急消防救援隊を派遣しました。</p> <p>次に、越谷市に避難して来られた被災者の対応として、避難者対策本部を設置し、支援に当たりました。避難して来られた被災者の方々を一時的にくすのき荘などの老人福祉センターにおいて、多いときで 20 世帯、63 人の方々を受け入れました。その後、越谷市で避難を希望した方々には市営住宅等を提供しました。市内には現在も約 140 世帯、300 人あまりの方々が避難しています。この避難者への支援策として、エアコンや冷蔵庫など 11 品目の家庭製品の無償提供や上下水道料金の減免、リサイクル自転車やリサイクル家具の提供を行っています。</p> <p>次に、被災地の業務を支援するため、平成 23 年度に宮城県東松島市に 1 カ月間で 2 人、岩手県大船渡市に 4 カ月間で 4 人、今年度は大船渡市に半年ごとに 1 人ずつ、宮城県名取市に 1 年間の予定で 1 人の越谷市職員を派遣しています。また、社会福祉協議会と連携し、がれき等の撤去活動のため、災害支援ボランティアバスをこれまで計 8 回派遣しています。11 月下旬には 9 回目の派遣も予定しています。</p>
再質問要旨	<p>今後の被災地に対する支援活動について教えていただきたい。</p>
再質問答弁要旨	<p>越谷市に住んでいる被災地からの避難者への支援にさらに力を込めていきたいと考えています。また、がれきの撤去活動などを中心とした支援ボランティアバスの 9 回目の派遣を 11 月に行います。</p>

9	内川 聡介
質問項目	越谷市における夜間小児救急体制について
質問要旨	<p>近年、夜間での小児救急のたらい回しが問題となっておりますが、その中で埼玉県は平成 22 年度の段階で小児救急患者に対応できる二次救急医療圏の割合が 57%となっておりますが、越谷市のこの割合はどれくらいなのでしょう。また埼玉県は平成 28 年度までの目標値として 100%を掲げておりますが、越谷市ではこの目標値に近づけるための政策などはどのような政策を行っているのかを教えてくださいたいと思います。</p>
答弁要旨	<p>二次救急医療圏は、埼玉県が地域保健医療計画の中で定めたもので、県内を 14 のブロックに分け、それぞれのブロック内で重症の救急患者に対応する入院治療の提供体制を整備することを目的とした単位です。越谷市は、越谷市、春日部市、草加市、三郷市、八潮市、吉川市、松伏町の計 6 市 1 町で構成される東部南地区に属しています。東部南地区は、夜間・休日における小児の二次救急医療支援事業について、平成 16 年 4 月 1 日から開始しており、夜間小児救急医療体制が整備されている医療圏です。平成 23 年度末の実績では、医療圏内 5 つの病院で計 641 件の救急搬送を受け付けています。</p> <p>越谷市内の小児救急医療体制について、まず、入院を必要としない比較的軽症な患者を対象とした初期救急医療体制ですが、平日の日中は市内各医療機関が、祝日や年末年始の日中は休日当番医が、夜間については平日、休日にかかわらず、平成 14 年 12 月に開所した小児夜間急患診療所が年間を通してそれぞれ対応しています。次に、入院治療が必要な重症患者を対象とした第二次救急医療の体制ですが、平日の日中は市内 7 か所の救急告示医療機関が、夜間と祝日、年末年始は、東部南地区第二次救急医療圏内 5 病院が小児救急医療支援事業を行い、対応しています。さらに、生命の危機が逼迫している重篤な患者については、第三次救急医療として獨協医科大学越谷病院の救命救急センターが対応しており、初期救急医療から第三次救急医療体制までの重層的な救急医療体制が整備されています。</p>

10	岸野 健太
質問項目	高齢者の安全のための情報共有について
質問要旨	越谷市内を歩いていると、徘徊高齢者探索の放送が聞こえてくる場合があります。防災無線による市内全体に向けての徘徊高齢者の情報提供は、高齢者の安全確保にとって有効な手段だと思います。しかし、肝心の放送内容の音量が小さかったり、音声が反響したりと、聞き取れないことが多々あります。放送改善とともに高齢者の探索のために他機関とどのような情報を共有しているのでしょうか。また振り込め詐欺や悪徳訪問などから高齢者を守るという観点からの連携も教えていただきたい。
答弁要旨	<p>放送の反響を防ぐためにスピーカーの配置を考慮するなど、放送内容が届くよう努めております。放送の聞き取りが困難な地域については、越谷 city メール配信サービスに登録することにより、携帯電話やパソコンに放送内容が随時配信されるサービスを行っています。</p> <p>迷子、迷い人の放送については、警察からの依頼に基づいて放送しています。このほか、振り込め詐欺の注意喚起として、年金支給日に防災行政無線を利用した放送も実施しています。</p> <p>防災行政無線のスピーカーの方向や音量の調整については随時対応しています。</p> <p>そのほか、認知症高齢者等の安全・安心な地域生活を目的として、認知症徘徊高齢者の介護者等を対象に、位置探索機能のついた端末機を貸与する認知症徘徊高齢者家族支援サービス事業や、認知症を理解し、支援する者等を養成する認知症サポーター等養成事業を実施しています。さらに、越谷市地域包括ネットワーク事業を開始し、各種協力機関、団体と連携しながら高齢者等を支援することを目指しています。</p>
再質問要旨	市民の安全を優先しつつもプライバシーの問題を考慮する必要があると思いますが、越谷市ではこの問題についてどのような方向性で進めたいとお考えでしょうか。
再質問答弁要旨	全国の6割の自治体が個人情報の保護条例のルール化を制定しています。現時点において越谷市独自の条例の改正は行われていないと把握していますが、今後地域の要援護者が安心して生活できるよう、安全にネットワークを活用していけるよう働きかけていきたいと思っています。

11	喬 銀凱
質問項目	越谷市の国際交流について
質問要旨	近年、日中には国家と国家の間に政治上の問題があるかもしれないが、地域と地域の交流はその影響を受けずにできるものです。そこで特に日中友好交流活動や姉妹都市との交流活動などに対して、越谷市はどのような態度や方針をとっているのかをお尋ねします。
答弁要旨	<p>国際化関係団体と協力をして、外国籍市民の皆様を対象としたさまざまな交流イベントや日本語教室等を開催しています。中国出身の国際交流員や市民ボランティアの多文化共生推進員が地域や教育機関等で国際理解講座を開催し、中国文化の紹介などを通して地域住民との交流を図っています。さらに、市政情報の多言語での提供にも取り組んでおり、市民ガイドブックや広報こしがや等の中国語版、各種マップの多言語版を作成、配布しています。</p> <p>姉妹都市交流事業は今年で28年目を迎え、青少年使節団の派遣、受け入れ事業など両市民の間での活発な交流や、市役所同士の人事交流事業として職員の相互派遣が行われています。越谷市内にはキャンベルタウン公園やキャンベルタウン野鳥の森が、キャンベルタウン市にはこしがやパークや茶室越谷亭があり、姉妹都市交流の象徴となっています。</p>

12	栗原 恭平
質問項目	高齢者の健康寿命を延ばすための市の取り組みについて
質問要旨	日本人の寿命は男女ともに世界トップクラスであり、いかに老後を健康なままで長く過ごすかが、その人のＱＯＬ（生活の質）に大きく影響している。こうした高齢者が元気で過ごせる期間（健康寿命）を延ばすために、越谷市が行っている取り組みを教えてください。
答弁要旨	<p>生活習慣病予防策として、胃がん、大腸がん、肺がん、結核、子宮がんなどの各種がん検診、チームマイナス３キロ、糖尿病講座、高血圧セミナー、脂質異常症セミナーなどのさまざまな健康教室、メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の減少を目的に、特定健康診査、特定保健指導などを実施しています。また、介護予防事業として、認知症予防講習会、すこやか体操教室、元気アップ教室、おたっしや教室、お口の健康講座などを実施しています。</p> <p>また、高齢者の生きがい対策事業として、いきいき農園、シルバーカレッジ、いきいきセント一事業、敬老会など、多くの事業を行っています。</p> <p>また、高齢者の憩いの学習の場として、老人福祉センターを現在市内に３カ所設置しており、４番目の老人福祉センターの開設に向け準備しているところです。平成２３年１０月から開始した元気な高齢者が介護施設を訪問して行う介護支援ボランティア制度の充実、ふらっとがもうなど高齢者の居場所の提供などの拡大を図っています。</p>
再質問要旨	チームマイナス３キロとは具体的にはどのような対策なのかお教えいただきたい。
再質問答弁要旨	チームマイナス３キロというチームに所属し、体重などがどうなったのかを検証しあいながら、講習やセミナーを通してチームでマイナス３キロを目指す取り組みです。

13	須田 若菜
質問項目	生活保護について
質問要旨	<p>現在、不正受給の横行や、働くよりも生活保護を受け取った方が楽で得であるといった問題が話題となっているが、現在の生活保護制度や越谷市での状況は。また、これらの問題に対してどのような対応をとっているのかについて教えて頂きたい。</p>
答弁要旨	<p>越谷市においては、平成23年度の被保護世帯は2,013世帯、被保護人員は2,927人、生活保護費総額で51億4,406万8,717円です。そのうち不正受給は74件、2,210万2,379円で、総額に占める割合は約0.43%です。受給者の生活状況等を把握し、自立を助長するための指導を行うため、世帯の状況に応じた年間報告計画に基づき、家庭訪問や臨時訪問等を行うことにあわせて、資産及び収入の状況調査を定期的実施することにより、生活状況等の正確な把握に努めています。</p> <p>また、制度を十分に理解してもらうため、届け出が必要な資産及び収入の種類を具体的に列挙した保護のしおりを用いて、保護開始時及び継続者には少なくとも年1回以上、届け出義務についての説明をしており、本年9月からは収入の申告についての確認書類もあわせて徴取することにより、不正受給対策の徹底を図っています。</p>
再質問要旨	<p>働ける世代への支援や考えをお教えいただきたい。</p>
再質問答弁要旨	<p>越谷市では、就労支援員を配置しており、就労に向けた相談、支援を行っています。また、全国的な取り組みとしてハローワークとの協働で就労支援を進めています。</p> <p>就労の収入に応じて生活保護の受給額が減らされてしまうという仕組みから、就労の意欲が湧いてこないといった議論もあり、国で（仮称）生活支援戦略の中で検討課題として挙げられていますので、国の動きも注視しながら越谷市としても自立支援に取り組んでいきたいと考えています。</p>

14	関根 那穂	欠席
質問項目	越谷市の保育について	
質問要旨	待機児童の解消等のために、新方保育所をはじめ、多くの保育所で定員枠を拡大していることと 思います。この政策に関して、どのような成果があったのか、それを踏まえて今後どのような子育て支 援を進めていくのか、教えていただきたいです。	

15	並木 恭子	
質問項目	放置自転車対策について	
質問要旨	<p>私の主な交通手段は自転車である。普段、自転車を利用していて疑問に思ったことをあげてみよう と思う。</p> <p>「放置自転車はやめましょう。」などの看板、忠告をよく目にし、放置自転車が人に迷惑をかけてし まうことは分かるが、自転車利用者からすればどこに自転車を置けばいいのかわからなく困っている 場合が多いのではないかと。私もその一人で、特に利用者が困るのは駅前であると思う。自転車の適切 な置き場所があるのであれば、広く情報を提供すべきである。「ここには置かないでください。」と いうことを忠告されるだけでは利用者は困ってしまう。また、有料の駐輪場しかないのであれば、そ れも問題であると思う。有料であることを気持ちよく思う利用者はいないと思うし、お金をとられて しまうのなら、お金のとられない場所へ…と、本来止めるべき場所でない所に、自転車を止める利用 者が増えることは考えられることである。</p>	
答弁要旨	<p>市内各駅周辺に自転車誘導整理員を配置し、放置自転車の撤去や整理とあわせて、特に放置自転 車が多く見られる駅については、一定期間駐輪場の案内マップの配布を行い、駐輪場の情報提供に努め ました。また、市のホームページにも駐輪場の案内を掲載しています。市営の駐輪場はありませんが、 財団法人自転車駐輪場整備センターに依頼し、駐輪場の確保を図ってきました。無料の市営駐輪場を 設置し、放置自転車の解消を図るという考えもありますが、公共サービスの提供をする際は、受益者 負担という考え方があります。仮に市営の駐輪場を設置した場合、利用者も駅利用者が主であり、駐 輪場の管理運営経費も発生するため、有料になるものと考えます。</p> <p>また、駐輪場は民間事業者で多く運営をされていますので、健全な経済活動からも有料にせざる を得ないものと考えます。</p>	
再質問要旨	12時間とめると料金が発生するといった、なるべく利用者が抵抗を感じないような駐輪場を設け ることについて、どうお考えでしょうか。	
再質問答弁要旨	駐輪場の場所の周知がまず第一のことかと思えます。ご提案のありました12時間とめると料金が 発生するという駐輪場ですが、現在越谷ではございません。市での経営になりますと、土地の確保、 整理員の人件費等が発生しますので、皆さん公平に有料駐輪場にとめていただいているという観点か ら、貴重なご意見として検討課題としていきたいと思えます。	

16	三上 里穂
質問項目	越谷市の防災について
質問要旨	近年、首都直下型地震が懸念され、人々の防災に対する意識が高まっています。しかし、実際に防災訓練に参加する人は少なく、特に若い世代の参加も少ないと感じます。文教大学や埼玉県立大学周辺は一人暮らしの学生が多く、そういった人々の防災意識を高めることも必要であると考えます。地域の防災対策に若い世代を巻き込む方策として、何か考えられていることはありますか。
答弁要旨	若い世代向けの対策ですが、防災情報等をメール配信する登録制のシティメール、申し込み不要で緊急時に市内の携帯電話に一齐配信するエリアメールのほかツイッターの活用も平成24年2月より開始しました。平成23年度、24年度と文教大学からご依頼いただいた防災対策ツアーや防災講座についても、積極的に協力しています。 市が能動的に情報発信することができる機会は、自治会を通じてが一番大きな手段になりますが、学生の皆さんはそこに参加していないという傾向が高いので、それぞれの方に興味・関心を持っていただくのが一番と考えています。
再質問要旨	メールに偏ってしまうと年配の方々がなじみがないものになってしまいますが、そういった世代に対してはどういった対策が具体的にあるのでしょうか。
再質問答弁要旨	防災無線、また、年配の方は自治体、地元とのつながりが非常に強いという傾向がありますので、自治会を通じた自治防災組織などお互いに連携をし合っていただくところを基本に考えています。

17	石川 直人
質問項目	緑化推進について
質問要旨	近年、暑い夏が続いている。都市化にともないアスファルトの反射熱などで気温が高くなっていることも否定できない。このようなことから、「都市の緑」が失われていることが問題ではないかと考える。越谷市として緑化政策についてどのように考えているか聞いてみたい。
答弁要旨	<p>越谷市みどりの推進に関する条例に基づき、一定規模以上の開発行為を行う場合は、樹木や草木で緑化を図ることを義務づけているほか、市民に対して苗木等の斡旋や、出生、結婚などの記念樹の配布を行っています。また、市街地の都市農地を保全し、緑地を確保するため、都市計画法に基づく生産緑地地区を164地区、29ヘクタール指定しています。さらにゴーヤやヘチマによるグリーンカーテンの普及のために苗の配布を行っています。</p> <p>既存の緑地を保全する取り組みとして、平成22年に越谷アリタキ植物園を開園したほか、平方自然観察林を今年度中に市が取得する予定です。</p> <p>緑の基本計画において緑と定義した、公園緑地などの市内の緑地の合計面積は、平成22年度末で市域面積の26.77%を占めます。平成27年度には30%まで引き上げたいと考えています。農地、屋敷林などの民有地の緑の保全が大きな課題となっています。</p> <p>現在の施策を継続しながら、緑化団体の育成など市民と協働で緑地空間の創出、保全に努めていく必要があると考えます。</p>
再質問要旨	河川や水辺の保護についてはどのようなお考えがありますか。
再質問答弁要旨	<p>河川については緑の基本計画の中で緑地として位置づけており、その中での保全もしています。水辺については、生活排水の問題において、下水道の接続率を高めていき水質の保全を確保していくというかたちです。</p> <p>また、水辺の空間を守りたいという意識を育てていくため、まず市民が水に親しんでいけるよう水辺環境にウッドデッキを設置するなど親水空間の創出を行っています。</p>

18	高橋 直裕
質問項目	越谷駅東口市街地再開発事業について
質問要旨	中央図書室など様々な施設を越谷駅東口に集め、利便性を高めるとのことですが、越谷市立図書館の近くの商業は利益が減ってしまうのではないのでしょうか。 コンパクトシティのメリットとデメリットについて教えて下さい。
答弁要旨	コンパクトシティを目指す目的は、都市の無秩序な拡散を抑制し、都市基盤施設や公共公益施設を集積することにより、投資効率の高い効果的な都市整備を実現できることです。 課題は、駐車場、駐輪場の確保や歩行者、自転車空間の整備です。

19	福山 沙月
質問項目	越谷市の都市計画について
質問要旨	越谷市の都市計画に関してお尋ねします。現在、越谷市では、第4次越谷市総合振興計画及び越谷市都市計画マスタープランに基づき、越谷レイクタウン地区での土地の整備・開発、越谷駅東口地区の市街地再開発事業等、市民、開発者及び市がそれぞれの責任と相互信頼の下、住みよいまちづくりを推進されています。特に、越谷レイクタウン地区には非常に広大な土地があり、今後、地区としてどのような姿に成っていくのか、とても関心があります。そこで、越谷レイクタウン地区及び越谷駅東口再開発事業に関する越谷市の目指すところ、現状、課題について、教えていただきたいと思えます。
答弁要旨	越谷レイクタウン地区では、平成20年3月に越谷レイクタウン駅が開業し、4月にまちびらきが行われました。現在約3,900人が居住しており、越谷レイクタウンには年間4,000万人を超える来場者が訪れています。越谷レイクタウンの顔となる大相模調節池を新たなレイクタウンの魅力ある拠点として情報発信したいと考えており、現在では、関係機関等と連携して、エリアマネジメント勉強会に参加し、大相模調節池の魅力づくりや地域の持続的な発展のための施策等について意見交換を行うなど、次なるレイクタウンのブランド化に向けて取り組んでいます。 越谷駅東口については、越谷ツインシティという愛称の、衣食住の多様なニーズに対応する複合施設を建設しました。中心市街地活性化の起爆剤として大きな役割を果たしてくれるものと期待されています。

20	高橋 亜由美
質問項目	不登校児童への対応について
質問要旨	<p>近年、全国的に不登校児童の数が増加しており、今やクラスに一人はいるといっても過言ではないほどになっています。越谷市では不登校児童の問題に関してどのような対応を取っているのでしょうか。不登校になってしまった子どもの復帰率は初期であるほど高いといわれます。迅速に対応するために各学校とはどのような連携を図っているのでしょうか。また、「やればできる」のに学校に行っていないという理由で将来の自己実現の道が閉ざされてしまう子どもたちが多くいます。不登校で学校に行けなかった子どもたちの自己実現のために進路指導や就職の支援は行っていますか。</p>
答弁要旨	<p>教育委員会が不登校対策プロジェクトを立ち上げ、総合的な不登校対策に取り組んでいます。各学校では、校長先生を中心に生徒指導部会、教育相談部会、不登校対策委員会等の体制整備を行い、児童生徒の情報交換を行ったり、教育センターなどの相談機関の活用を図るなど、組織的に取り組んでいます。</p> <p>学校相談員とスクールカウンセラーが教員と連携を図りながら、不登校児童生徒の支援を行っています。教育センターを拠点として臨床心理、養育、言語の専門相談員や訪問相談員による相談支援、適応指導教室「おあしす」に配置している学び総合指導員等による支援、学校給食相談活動への訪問指導や教育相談にかかわる研修会の開催など、社会の変化に対応する教育相談活動の拡充と充実を図っています。</p> <p>不登校生徒の進学及び就職については、各学校で担任が三者面談において、本人の意向を受け止めながらさまざまなアドバイスをしています。埼玉県 の 県立高等学校では、不登校の生徒などを対象にした特別な選抜を実施しています。</p>
再質問要旨	<p>教員に対する教育相談体制について、市としてはどのような観念や理念を持って研修などを行っているのでしょうか。</p>
再質問答弁要旨	<p>教育機関での対応については、のちほど調べてお答えしたいと思います。</p>

21	矢羽々 沙樹
質問項目	越谷市のスポーツ普及策について
質問要旨	<p>今年4年に1度のオリンピックがロンドンで開催されました。日本選手の活躍はとても素晴らしく、競泳のメダルラッシュ、星さんや足立さんの活躍、フェンシング男子団体、卓球女子団体、サッカー女子が初のメダルとなる銀メダルを取ったことや何十年ぶりの快挙を目の当たりにして、勇気や自分の専門種目に対しての意欲をかきたてられました。そこで、越谷市では実際にどうやってスポーツを普及させているのかを教えてくださいたいです。総合型地域スポーツクラブなどに取り組み、地域でスポーツができる環境を作るといいのではないかと思います。いかがでしょうか。</p>
答弁要旨	<p>スポーツ・レクリエーション関係団体との連携により、市内13地区にスポーツ・レクリエーション推進委員会を組織し、地区体育祭の開催や市民体育祭への参加や、地区内学校体育施設の開放を行うなど、地区のスポーツ・レクリエーションの推進に大きく貢献していただいています。また、越谷市体育協会や越谷市レクリエーション協会、越谷市スポーツ推進委員会等が主体的に大会などを開催し、市民スポーツの振興を図っていただいています。市及び教育委員会についても、各種生涯スポーツ講座、教室の開催、体育施設の充実、活動の参加促進などに努めています。</p> <p>総合型地域スポーツクラブについては、設立を目指す団体への情報提供等の支援を行っており、現在サッカーを主な種目として活動しているNPO法人グラスルーツスポーツクラブが平成22年に県により認知され、積極的な活動を展開されています。</p>
再質問要旨	<p>総合型地域スポーツクラブについて、サッカー以外のスポーツの提案等はあるのでしょうか。</p>
再質問答弁要旨	<p>新たに予定されているスポーツクラブの創設の相談は、現在はありません。種目に関して、一定の種目にとらわれず、各地区で特色のあるさまざまな地域型スポーツクラブの振興に対するNPOのクラブなどが立ち上がっており、今後もそれぞれ埼玉県により認知されていくと思っています。</p>

22	吉井 周子
質問項目	越谷市の学校給食について
質問要旨	<p>全国で問題となっている給食費の未納問題についてお尋ねします。越谷市では、どのような対策のもとで動いているのでしょうか。それは市として一律の対応をとっているのでしょうか。全国の他の市では、あまりにも深刻な場合は差し押さえも行っているようです。越谷市の教育委員会の報告書によると差し押さえまでは行っていないように見受けられたのですが、その場合、給食費の不足分はどなたが補填しているのでしょうか。教えていただきたいです。</p>
答弁要旨	<p>学校では担当の教職員をはじめ学級担当や校長、教頭などが電話や文書による催告を行っています。また、教育委員会では特に過年度分について文書による催告、夜間の電話催告や臨宅徴収などを行っています。</p> <p>今後においては、未納により保護者負担において大きく公平性に欠くことなどを引き続き説明するとともに、経済的な問題により支払いが困難な保護者に対しては、就学援助制度等の活用を促していく必要があります。</p> <p>また、越谷市債権管理条例に基づき、収納課債権回収係及び学校との連携を図りながら収納率の向上に努めていく必要があると考えています。</p>
再質問要旨	<p>債権管理条例には差し押さえもやむなしと書き添えられていましたが、越谷市では未収納の家庭に差し押さえを行うと捉えてもよいのでしょうか。</p>
再質問答弁要旨	<p>現状としては給食費の差し押さえという事例はありません。越谷市としては就学援助制度を進めてまいりたいという方向性を示しています。</p>

23	依田 啓太
質問項目	越谷市のいじめ対策について
質問要旨	<p>ここ最近、大津でおきたいじめ問題についてメディアにて取り上げられ、様々な情報が錯綜し、問題として挙げられています。越谷市の「教育行政方針」において、『いじめや不登校、非行・問題行動の未然防止と早期発見・解決を目指し（後略）』とありますが、具体的にどのように対応するつもりなのか。また、学校においていじめかそうでないかの判断を行うのは、教員であります。大津の問題では、その教員にも批判が集中しています。このようなことがないよう、教員は1人1人いじめについての意識を改めて考えるべきであると思いますが、市の教育委員会として、教員に対しある程度の指導をする予定があるか。以上2つを教えてください。</p>
答弁要旨	<p>全小中学校において毎月生徒指導調査を行い、各学校でのいじめ事案などの実態把握に努めています。各学校ではより正確な実態把握のため、アンケート調査、個別面談、家庭訪問、日記等で子どもの様子などを把握しています。</p> <p>学校の内外を問わず相談方法を複数用意するため、学校相談員やスクールカウンセラーの配置、学び総合指導員の派遣を行っています。さらに、子ども専用電話相談「ハートコール」を月曜日から土曜日まで、朝9時から夜8時半まで開設しています。また、今年の10月下旬からは電子メールを活用し、市内の児童生徒及び保護者を対象にメール相談を開始しました。</p> <p>教員を対象とした研修については、生徒指導に関する研修会や教育相談研修会等を開催しています。</p>
再質問要旨	<p>電子メール、電話での相談件数、また未然防止をどれくらいできたのか教えてください。</p>
再質問答弁要旨	<p>「ハートコール」の実績について、平成23年度の相談件数がいじめ9件、友達関係に関すること13件、恋愛に関すること3件、勉強に対すること2件、その他身体の悩み、家族の悩み、いたずらの疑いが45件でした。電子メールによる相談は10月下旬に始め、現在では1件の相談があり、メールによる相談で解決しました。</p> <p>未然防止については、実際何件というのは難しいことですが、いじめの芽を摘む効果としては期待できていると思っています。</p>

24	芦部 洋一郎
質問項目	教育行政方針について
質問要旨	<p>教育委員会による教育行政方針を読んで、改定後の教育指導要領に即していてさまざまな内容が幅広く盛り込まれていると感じました。</p> <p>しかし、具体的に書かれている点が少なく、また内容自体は無難であり印象に残りませんでした。もっと越谷市らしい、特色のある教育内容を盛り込むことを考えたらよいかと思います。</p>
答弁要旨	<p>平成23年3月に越谷市の実情に応じた特色ある教育を振興していくため、「いきいきとだれもが夢に向かって輝く越谷教育プラン—越谷市教育振興基本計画—」を策定しました。この計画では今後5年間に取り組む施策を体系化しました。教育行政方針は、越谷市教育振興基本計画の3つの基本目標に沿って、当該年度の教育行政運営における基本的な考え方や主な施策などを示したものです。さらに、この教育行政方針を受けて、越谷市教育行政重点施策を作成し、当該年度に重点的に取り組む教育施策のより具体的な内容や事業の詳細を記載して、計画の推進を図っています。</p>
再質問要旨	<p>教育行政方針で示されているICTを活用した授業に向け、機器の導入が今後どのようになるかお教えいただきたい。</p>
再質問答弁要旨	<p>現在1フロアに1つのモニターがあり、そこでパソコンを使えるという現状です。これからは1人1台のパソコンの時代になるかとは思いますが、教育委員会などと相談しこれからの施策を考えていき、ITから離れられない時代になっている弊害もあわせて考えていきたいと思っています。</p>
再々質問要旨	<p>パソコンを用いて授業をするための教員への研修の充実についてお聞かせいただきたい。</p>
再々質問答弁要旨	<p>教育委員会と相談し、あらためてお答えしたいと思っています。自身の考えとしては、パソコン使用のメリハリをつけ、字を書くことの大切さを伝えていきたいと思っています。</p>

25	池田 菜々
質問項目	中学校選択制について
質問要旨	<p>越谷市における中学校の学校選択制についてお尋ねします。健診ボランティアで中学校を訪れた際、越谷市の中学校では平成18年度から学校選択制を実施していることを知りました。この制度には、開かれた学校作り、各学校が切磋琢磨しあうことができるといったメリットがある一方で、地域との関わりの希薄化、小規模校のさらなる生徒数の減少などのデメリットがあると言われています。学校選択制の導入により中学校の学校生活にどのような変化があったのでしょうか。また問題点や今後改善すべき点などがありましたら、教えていただきたいです。</p>
答弁要旨	<p>中学校選択制のメリットは、自分の通う学校を自分で調べて選ぶことができ、保護者も子供と一緒に中学校について調べることから、学校教育への関心が一層高まります。各中学校も学校の公開が進むことにより、特色ある学校づくりにより取り組むこととなります。</p> <p>次に、デメリットについては、まず地域とのかかわりの希薄化につきましては、平成22年5月に実施をした中学校への学校選択制にかかわるアンケートでは、地域とのつながりがふえていると答えた学校が多くありました。さらに、中学校選択制の実施に伴い、各中学校に対して年間7回程度の授業、部活動を公開する学校公開日、2回以上の学校説明会、学校行事の公開を行うように指導しており、学校を地域に公開する機会がふえたことにより、地域に開かれた学校づくりが進んでいると考えています。</p> <p>また、小規模校のさらなる生徒数の減少についてですが、越谷市の中学校選択制では、学校選択制を利用し、基本学区外の学校を選択する生徒数は、毎年1割程度ですが、一部の中学校では基本学区外を選択している生徒の割合が市全体より高い傾向がありました。これらの状況を踏まえ、越谷市教育委員会ではより一層特色ある学校づくりをお願いしているとのことです。</p> <p>次に、中学校選択制による学校生活の変化についてですが、平成23年1月、中学校3年生を対象に実施した中学校選択制にかかわる調査において、約87%の生徒が充実した学校生活につながったと回答しています。</p>
再質問要旨	<p>地域とのつながりが増えているという具体的な理由があればお教えいただきたい。</p>
再質問答弁要旨	<p>一個人としての意見ですが、各地区のイベント会場に吹奏楽が出演する、学校を公開した文化祭等に地域の方たちが親子で参加したりすることによって地域のコミュニケーションが図られているように感じます。</p>

26	市川 慶太
質問項目	夏の熱中症対策について
質問要旨	<p>今年の夏もいつになく暑い夏で、猛暑日が多くありました。それに伴い、熱中症で病院に運ばれる小中高生や高齢者の方々が数多くいました。今後、さらに暑くなると思われますが何か対策はしているのでしょうか？例えば、熊谷市などはミストシャワーを設置したり、呼び掛けを多くしています。</p>
答弁要旨	<p>熱中症への注意喚起として、気象庁の週間天気予報で、最高気温が35度以上になると予想される場合には、防災無線で注意を呼びかけることや、熱中症予防について「広報こしがや」や市のホームページ、ポスターなどを活用して広く情報提供を行いました。</p> <p>高齢者に対しては、地域包括支援センターが中心となった熱中症予防の注意喚起啓発、環境省作成の熱中症リーフレットをセンター職員が見守りを兼ねて高齢者宅を訪問した際に配布したほか、埼玉県作成の熱中症予防5つのポイントのチラシを民生委員・児童委員協力のもと、高齢者宅の訪問時等に配布しました。さらに、ふれあいサロンや介護予防教室などにて計30回、熱中症予防の講話や注意喚起の呼びかけを行いました。</p> <p>市内各小中学校においては、児童生徒が水筒を持参し、適宜水分補給を行うとともに、養護教諭を中心として氷や保冷剤等を用意しておき、早目に児童生徒の体を冷やせるように対応しました。平成19年度には、全ての普通教室に各室2台の扇風機を設置したり、学校独自の取り組みとしては、ヘチマやゴーヤを生かしたグリーンカーテン、壁面緑化、打ち水等が行われています。さらに、今年度は、ミストシャワーを一括購入し、6月に全小中学校へ配布しました。登校時や休み時間、部活動の休憩時間等に活用されています。</p> <p>このほか市内で実施される地区体育祭などの大規模なスポーツイベントの際にも、ミストシャワーの設置や参加者に水分補給を呼びかけるなどについて、スポーツ・レクリエーション関係団体への注意喚起等を行っています。</p> <p>ミストシャワーの設置について、市内小中学校以外の公共施設へも拡大ができるよう、またエアコンの設置においても、現在小中学校の普通教室の設置がございませんが、一議員として取り組んでまいります。</p>
再質問要旨	<p>小中学校に冷房設備を入れる計画や案はあるのでしょうか。</p>
再質問答弁要旨	<p>設置の計画について承知はしていませんが、執行部と検討しながら推進していきたいと思ます。</p>

27	大江 真央
質問項目	生涯学習を通じた世代間交流について
質問要旨	<p>近年、核家族化の進行により、世代間交流の機会が少なくなったように感じられます。地域単位で見ても、自分たちと世代の異なる方々と交流できる機会は大きく減少してきています。このままでは越谷に根付いてきた伝統や地域の間人間関係といったものが失われてしまうのではないかと心配しております。ご高齢の方の中には退職後に生き甲斐が見つからず孤立してしまう方も多いと聞いております。今の市民講座は「先生」をお招きするようなものが多いですが、もっとご高齢の市民の中から講師を発掘し、講座を行うことで世代間交流や市民の活躍の場を設けるということを考えていますが、いかがでしょうか。</p>
答弁要旨	<p>教育委員会において、ライフステージ、ライフスタイルに応じて主体的に学ぶことができるよう、各種事業を実施しています。各種事業の講師は、専門の講師をお招きすることもあります。高齢者を含めた幅広い年代層の市民を講師としてお招きし、これまでに身につけた知識や技術等をさまざまな事業に生かすことで、世代間交流の機会を提供しています。</p> <p>生涯学習フェスティバルやパソコン操作の初心者を対象としたIT講習会、小中学校の保護者を対象とした子育て講座などで、市民の皆様にご活躍いただいています。また、市民が身につけた知識や技術を地域社会に生かすことができるよう、生涯学習の人材登録制度として、生涯学習リーダーバンクを設置しています。現在30歳代から80歳代までの延べ258名に登録していただいています。教育、社会科学、自然科学、医学、産業、技術、芸術・文化、市民生活、国際理解、語学、スポーツ・レクリエーションなどの各種事業の講師として紹介しています。</p> <p>さらに、13地区センター、公民館でも、各地域の市民が講師やリーダーとなって地域の文化・伝統を継承する取り組みや世代間交流事業を実施しています。</p>
再質問要旨	<p>登録している年代層が30代から80代とのことですが、実際参加している人の年齢層をお教えいただきたい。</p>
再質問答弁要旨	<p>参加している方の年代層については、手元に資料がないのでお答えできませんが、生涯学習リーダーバンクの取り組みの平成22年度の活動実績は、全体で1万5,914件です。</p>

28	大友 直人
質問項目	教育振興基本計画について
質問要旨	平成23年3月に策定された「いきいきとだれもが夢に向かって輝く越谷教育プラン-越谷市教育振興基本計画」に、「新たなPDCAサイクルの構築により、教育施策の一層の推進をはかることにする」と書いてあるが、「新たなPDCAサイクル」について、以前実行していたPDCAサイクルと比較して具体的に教えていただきたい。
答弁要旨	PDCAサイクルの構築について、P、計画をこの教育行政全体を包括する教育振興計画の策定とし、ドゥー、実行を毎年度策定する教育行政方針及び教育行政重点施策をもとにした施策の実現としています。C、点検評価を教育委員会の事務に関する点検評価とし、その結果をA、改善につなげていくことで、教育行政を推進していくものです。 今回の変更点ですが、教育委員会の事務に関する点検評価について、平成23年度実績分から教育施策という特性を踏まえ、評価に際して新たに4つの視点を取り入れることで、自己評価の精度を高めたこと、また点検評価の客観性の精度を高めるため、大学教授や教育行政の経験者による外部評価を実施し、教育に関し学識経験を有する者の活用を効果的に図ったことです。
再質問要旨	PDCAサイクルのプランの対象者が誰であるのかお教えいただきたい。
再質問答弁要旨	対象というのがもちろん市民の皆様方、そして実現するためのさまざまな機関もあわせて総合的にということが言えると考えています。

29	小澤 啓登
質問項目	ごみの減量について
質問要旨	ゴミを減らすために、越谷市では雑誌の分別徹底の啓発を行っていますが、他にはどのような対応をおこなっているのですか？
答弁要旨	雑誌の徹底分別に加え、生ごみの水分の除去法を広報紙で紹介、生ごみを排出しない調理法を紹介するエコクッキング教室の開催、家庭用生ごみ処理機の購入費の補助を行っています。また、資源物については、地域の皆さんの自主的な資源回収活動に対して、回収量に応じた補助金を交付しています。リサイクルプラザでは、ごみ処理ラインの見学コース、展示、講座事業等でごみ減量とリサイクルについて情報発信を行っているほか、再生家具の販売をしています。さらに、古布等を利用した小物制作講座や包丁研ぎ講座等を開催し、もったいない精神の普及啓発に努めています。
再質問要旨	リユース展とは、フリーマーケットと同じような考え方でよろしいのでしょうか？
再質問答弁要旨	粗大ごみで出されたものをきれいに掃除、修理をして販売しています。

30	柴山 歩美
質問項目	教員の人材育成について
質問要旨	<p>文教大学では、教員志望の学生が多く、助手プログラムや補助教員といった形で市や県内外の小中学校などの現場におもむき、学習しています。科学技術体験センターなど、児童や生徒たちの創造力や興味・関心を刺激する機関が市内には存在し、多ジャンルにわたる専門的な人材を育成する姿勢が見られますが、市の教育委員会として教員育成に対して小中学校または高校、大学と連携をとって、もっと実践的な人材育成を施す方向性を考えているのか、質問したいと思います。</p>
答弁要旨	<p>市では、主催研修として、初任者、2、3年次および臨時的任用教員、経験の浅い教員を対象とした研修、4年次ないし9年次教員を対象とした教員のライフステージに応じた研修、市内全教員を対象とした学校の教育力の基礎をつくる研修を実施しています。これらの研修は、教職員それぞれの経験年数や職務内容に見合っており、教職員の資質、能力の育成につながっています。また、実践的な人材育成を目的として、教育実習生や教育ボランティアを受け入れる大学との連携事業も実施しています。特に文教大学とは、教員を志望する学生の育成及び越谷市の教育環境の向上を目的としたパートナーシッププログラムも実施しています。このプログラムには、学生が1年間、学校現場で実習する「専攻科の学生派遣プログラム」、2週間現場体験する「先生の助手体験プログラム」、研究発表会や校内研修に参加して指導方法などを学ぶ「学生参加プログラム」があります。</p>
再質問要旨	<p>越谷市内でALTとして働いている外国人で、あまり日本語が話せない方に対して、英語またはその他の言語を話せる職員や市からのサポートについてお聞きしたいと思います。</p>
再質問答弁要旨	<p>ALTに対しての市のサポートについて、正確には今お答えすることができませんが、現場で子供たちが先生にかかわること以上に、PTAや先生方が外国の人、ALTの先生方と直接もっとかかわって、市は同じ土俵で、イベントなどの参加によって、密にコミュニケーションをとれる体制を実践してきました。市でのこれからの取り組みについては、また改めてご報告したいと思います。</p>

第2回越谷市学生議会開催要領

1 趣旨

越谷市議会では、市民に親しまれる開かれた議会を目指すとともに、議会活動を広く理解していただけるよう議会の活性化に向けて取り組んでいるところである。学生議会は、その取組みの一環として、次代を担う若者が模擬議会を体験することによって、市政や議会への関心を深めていただくことを目的に開催するものである。

2 主催

越谷市議会

3 協力

越谷市・越谷市教育委員会

4 開催日及び会場

- (1) 平成24年11月17日（土）
午前9時30分～午後4時30分
- (2) 越谷市議会本会議場

5 学生議員の対象及び定数

- (1) 埼玉県立大学、文教大学に在籍する学生及び市内在住の大学生（短大、専門学校生を含む）
- (2) 32名

6 学生議会の内容

- (1) 市政に対する一般質問
 - ・市議会一般質問通告方式に準じて実施するものとし、学生議員が質問をし、市議会議員が答弁者となる。
 - ・学生議員の中から議長、副議長を互選により選出する。
 - ・質問は一人一問とし、質問・答弁を含めて8分以内とする。1回目の質問は3分以内とし、時間内であれば再質問は何回でもできるものとする。
- (2) まちづくりに関する決議
 - ・今後のまちづくり等について、学生議会としての意思決定を行う。
- (3) 意見交換会
 - ・学生議会の感想や今後のまちづくり等について、学生議員と答弁議員で意見交換を行う。

7 その他

その他、学生議会の開催に関し、必要な事項は別に定める。